

令和 7 年度
滝沢市内河川水質追加調査

2026 年 3 月

滝 沢 市

＜ 目 次 ＞

1. 業務目的	1
2. 調査方法	1
3. 調査結果	2
3-1. 考 察	3

1. 業務目的

「令和7年度滝沢市内各種環境調査業務における河川水質調査」の大腸菌数の夏季結果において、12地点中5地点（表-1）で大腸菌数が市の独自目標としている河川の水質環境の保全に関する環境基準のA類型（水道2級、水産1級、水浴）の環境基準を超過した。

調査者の考察では、降雨量の減少による記録的な渇水により、河川水の成分濃度が上昇したことが要因として考えられることから、超過した5地点については、継続的な水質変化を把握するため、例年調査をしている夏季、冬季（年2回）に加え、秋季に2回の追加調査を実施し、経過観察を行った。

表- 1 超過地点

No.	地点名	場 所
5	木賊川上流	滝沢市柳沢地内
7	巣子川上流	滝沢市狼久保地内
8	巣子川中流	滝沢市巣子地内
9	巣子川下流	滝沢市巣子地内
11	市兵衛川上流	滝沢市湯舟沢地内

※調査位置図は、令和7年度滝沢市内各種環境調査業務における河川水質調査参照

2. 調査方法

試料採取方法、分析項目及び分析方法は、「令和7年度滝沢市内各種環境調査業務」と同様。

3. 調査結果

水質分析結果は、表-2 に示すとおりである。なお、参考として夏季、冬季の12地点も併記する。

表- 2 水質分析結果(大腸菌数)

調査地点	分析結果(CFU/100mL)				環境基準 A 類型※
	R7. 7. 30	R7. 9. 24	R7. 11. 5	R8. 1. 15	
No. 1 仁沢瀬川下流	130	—	—	38	300CFU/100mL
No. 2 金沢川下流	150	—	—	350	
No. 3 市兵衛川下流	98	—	—	190	
No. 4 諸葛川下流	140	—	—	39	
No. 5 木賊川上流	6, 400	190	26	36	
No. 6 木賊川下流	96	—	—	750	
No. 7 巢子川上流	8, 200	160	120	1, 200	
No. 8 巢子川中流	2, 600	110	200	30	
No. 9 巢子川下流	1, 200	1, 900	88	60	
No. 10 金沢川上流	86	—	—	18	
No. 11 市兵衛川上流	1, 900	290	50	10	
No. 12 滝ノ沢上流	12	—	—	2	

※ 調査地点を流れる河川は、No. 4 諸葛川を除き、全て環境基準類型の無指定河川である。そのため、無指定河川の大腸菌数は、参考として河川 A 類型に適用される基準（300CFU/100mL）として示す。

備考 1) ■ は、河川 A 類型に係る環境基準超過を示す。

備考 2) □ は、R7. 7. 30 の調査において河川 A 類型を超過した 5 地点であり、秋季での追加調査地点を示す。

3-1. 考 察

河川水質追加調査（令和7年度滝沢市内各種環境調査業務における河川水質調査分を含む）では、夏季はNo.5、7、8、9、11が、秋季はNo.9が、冬季はNo.2、6、7が環境基準を超過した。秋季の追加調査により経過観察を行ったものの、継続的な基準超過は確認されなかった。

基準超過の要因としては、「令和7年度滝沢市内各種環境調査業務 報告書」の記載のとおり、今年度は夏季において渇水であったことが挙げられる。気象庁の過去の気象データより、2006～2020年の15年間の滝沢市における月ごとの平均降水量は、6月が122.9mm、7月が245.4mmである。これに対して、2025年6月の降水量は92.5mm、7月は53.5mmと非常に少なかった。これにより、河川の流量が少なくなり、平年より汚染物の影響を受けやすくなったと考えられる。

また、大腸菌数の特徴として、他の水質項目（mg/L）と比べて、数値が大きく変動しやすい特徴がある。大腸菌数の変動範囲は、0～数千 CFU/100mL と広く、わずかな汚染物の流入増加で桁が変わることがある。さらに、降雨や融雪の際には、数倍～数十倍に増加するといった大きな変動が現れる事例が多い。

これらのことから、従来の年2回調査から年4回調査とすることで、より詳しく状況が観測できることから、来年度以降も年4回の調査を実施し、引き続き経過観察していくこととした。